

1. 単元名 「介護技術の実際（着脱の技術）」

2. 単元設定の理由

- 介護とは、日常生活を送るうえで様々な支障のある人に対して、人としての尊厳を守りその人らしい生活の自立を目指した支援行為である。そのために、介護技術の実践においては、要介護者の安全性、快適さや残存機能の活用が重要事項となる。しかし、介護の対象者は、現在の高齢者や障がい者だけではなく、人間誰もが、加齢により、病気を発症し、障がい者となる可能性があり、現在ではなくても将来的に自分や家族が介護を必要とする人になることは特別なことではない。介護を学ぶときは、介護技術を高度な専門的領域ととらえるのではなく、将来のライフサイクルと密着させて取り組む姿勢が大事である。

本単元では、これまでに学習した、介護の理念や高齢者および障がい者の心身の特徴を基に、基本的な介護技術を習得させることを目的としている。また、全ての介護技術が、生活行為につながっていることに気付かせ、介護を自分の将来と結びつけてとらえさせることを目指している。さらに、介護は、人が人にはたらきかける行為でもある。そのため、コミュニケーションの取り方も重要な要素となる。この単元の学習は、常に人とコミュニケーションをとりながら行う形式であるため、人とコミュニケーションをとるための基本的態度も身に付けることができる。生徒がこの単元を学習することにより、介護技術の習得だけではなく、自分の生活行為をふりかえりながら、人間関係を形成するコミュニケーションの大切さに気付くことができるという理由から、本単元を設定した。

- 本学級の生徒は、明るく元気な生徒が多く、全体的に和やかな雰囲気がある。保育系、福祉系の上級学校に進学希望をもつ生徒が多いため、学習の取組に対して意欲的である。2学年から基礎的な介護の知識を学び、3学年では、社会人講師により基本的な介護技術を体験している。講義形式の学習形態よりも、体を動かして活動する取組を好む生徒が多いため、3学年の学習の方が意欲的である。しかし、老人福祉施設等での十分な実習経験もなく、高齢者や障がい者を身近に感じられない生徒も多い。

1 学期実施のアンケート調査によると、将来の希望職種では、保育系が全体の進学希望者のなかで80%と高い。一方、福祉系を希望している生徒は全体の進学希望者のなかで11%である。「この科目に興味や関心をもって授業に取り組んでいるか」の問いに対しては、「当てはまる」および「やや当てはまる」と答えた生徒が92%であった。また、「技術や技能はきちんと身に付いているか」の問いに対しても、「当てはまる」および「やや当てはまる」と答えた生徒が97%と、実技の授業に対する関心の高さがわかる。しかし、一方では、集中力が続かない生徒も数名おり、机間指導において個別に指導が必要な場合もある。

- 指導にあたっては、着脱の介護に関する基本的な知識を振り返り、既習の技術を応用させ、それぞれの場面において、どのような言葉をかけるか、どのような援助を必要としているかを考えながら、安全に配慮しながら取り組ませていきたい。そこでまず、介護者・要介護者・観察者の立場を交互に体験させ、相手の気持ちを実感させる。また、観察者になることで、自分自身の行動を振り返ったり、他者の行動からさまざまな方法があることを理解させる。次に、ADL（日常生活動作）の違いにより、残存能力を生かした援助を考えさせる。さらに、声を出さないで行う場合と、声を出してコミュニケーションを図る場合を設定し、コミュニケーションの重要性を認識させる。最後に、実技で気付いたことを記録させ、チェックリストを用いることで、介護技術だけではなく、言葉かけ等のコミュニケーションが習慣化できるようにしていきたい。

1 回の授業内容の説明では理解できずに、既に説明した内容を授業中に繰り返し聞いてくる生徒がいる。生徒の集中力を高めるために、授業内容の確認は準備物の確認終了後の落ち着いた環境で行うことが重要であり、実技の時間配分も一つ一つの技術ごとに区切り、生徒が見通しをつけて主体的に活動できるように指導する。

3. 目標

- 介護技術は、要介護者にとって安全で安楽であること、ボディメカニクスに合致した方法であること、要介護者の自立生活を目指すものであることを理解する。
- 人間関係を形成するコミュニケーションの大切さに気づき、介護者が要介護者とコミュニケーションをとるための基本的態度を身に付ける。

4. 指導計画

(全31時間)

1回	コミュニケーションと観察の意義と目的	1時間	講義
2・3回	コミュニケーションと観察の留意点	2時間	実技
4・5回	環境の整え方	2時間	実技
6回	運動・移動介護の意義と目的	1時間	講義
7・8回	運動・移動介護の留意点	2時間	実技
9回	食事介護の意義と目的	2時間	講義
10・11回	食事介護の留意点	5時間	実技
12回	清潔の意義と目的	1時間	講義
13・14回	清潔の留意点	2時間	実技
15回	排泄介護の意義と目的	1時間	講義
16・17回	排泄介護の留意点	2時間	実技
18回	移動の技術	1時間	講義
19・20回	移動の技術	2時間	実技
21・22回	着脱の技術	5時間	実技 (1/5時間)
23・24回	福祉用具の活用	2時間	実技

5. 本時の指導観

- 要介護者にとって毎日の生活は、私たちの生活と同じものである。そこで、日常生活で行っている自分自身の衣服の着脱といった生活行為を振り返らせ、関心をもたせることにより介護の意義と目的や、介護上の留意点を理解させるようにする。
- 実技では、チェックリストに基づき、介護者、要介護者、観察者の3役を体験させる。そのことにより、介護者と要介護者の心情を理解したうえでの適切な介護について理解させる。
- 実技のチェックリストにコミュニケーション要領を盛りこむことにより、介護者と要介護者の基本的なコミュニケーションの取り方を身に付けられるようにする。
- 片麻痺の要介護者を想定し、実技を行うことにより、残存機能の活用を考慮した適切な介護を選択できるようにする。
- 実技に入る前に、身だしなみの確認(適切な服装であるか。爪をきれいに削っているか等)を行うことにより、介護が対人援助サービスの一つであることに気付かせ、エチケットを習慣化させられるように計画した。

6. 本時の目標

- ①介護者・要介護者・観察者の役割を的確に行い、学習内容に積極的に取り組む。【関心・意欲・態度】
- ②コミュニケーションの内容を主体的に考え、適切な言葉かける。また、衣類着脱の介護技術の基本を習得する。【技能・表現】

7. 教材「着脱の技術」

生徒：教科書(基礎介護 中央法規)
 副教材(五訂 介護福祉士国家試験 実技試験のチェックポイント 中央法規)
 ワークシート
 教師：教科書(基礎介護 中央法規)
 副教材(五訂 介護福祉士国家試験 実技試験のチェックポイント 中央法規)
 必要物品：パジャマ

8. 過程

展開	学習内容	学習活動	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認 ・前時の学習内容の確認 ・本時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容（衣服の着脱の意義やゆかたの交換）を想起する ・本時の学習内容を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱の介護の基本について発表させる 		5分	一斉	(1)
展開	<p>1 衣服の着脱について</p> <p>1) パジャマの着替え</p> <p>ア かぶり式パジャマ（片麻痺がある場合 臥位）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の形態の違いを理解する ゆかた パジャマ 前あき・かぶり ・本時の手順とポイントを学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服を見せる ・衣服の形態によって、着脱動作の違いを理解させる 	教科書 ・副教材 ・ワークシート ・必要物品	5分	一斉	(1)
	①状況確認・手順確認	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者の状況と手順を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・着患脱健を確認させる 		10分		
	○ABCの3場面の実技	<ul style="list-style-type: none"> ・ABCの3場面を確認する ・状況に応じた介助方法を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ABC3場面の実技をすることを伝える ・自立度を確認させる ・健側を確認させる 		5分		
	○役割について	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者、要介護者、観察者を交互に体験する 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者・要介護者・観察者の体験を交互にすることを伝える ・順番を決めさせる ・観察者には、記録を取らせる 		5分		
	<p>A 臥位で全介助</p> <p>②実技の準備 必要物品の確認 各班活動</p> <p>③デモンストレーション</p> <p>④実技</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れを確認する ・手順を確認し、ワークシートへ記入する ・介護者も要介護者も声を出し、コミュニケーションを取りながら着脱の介助を行う ・実技の準備をする ・デモンストレーションを見て手順を確認する ・3人1組で実技を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者・要介護者・観察者の体験を交互にすることを伝える ・順番を決めさせる ・観察者には、記録を取らせる ・説明全体を振り返らせ、本時の学習内容確認させる 	20分	各班	(1)	
展開	学習内容	学習活動	指導上の留意点	教材	配時		形態

展 開	B・C 2 場面 B 座位で一部介 助	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者も要介護者も声を出さ ずに着脱の介助を行う 			35 分	教 科 書 ・ 副 教 材 ・ ワ ー ク シ ー ト ・ 必 要 物 品	各 班 個 人 一 斉	(1)	
	C 座位で一部介 助	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを図りな がら行う 						(1)	
	②実技の準備 必要物品の確認 各班移動	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の準備をする ・ワークシートへ記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物品を揃えさ せる ・言葉かけを考えさせ る 						(2)
	③デモンストレー ション	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションを見て 手順を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーショ ンを行い、質問に答 える ・B・Cは時間を区切 って行わせる 						(1)
開	④実技	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組で、実技を行う ・観察者は記録をとる ・実技終了後、ワークシートに 気付いたことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に十分配慮し、 実技に取り組むこ とを確認させる ・各班を巡回し、安全 確認する ・着脱の介助を受ける 人の気持ちについ て考えさせる 			各 班	(1) (2)		
							(1)		
							個 人	(1)	
ま と め	・本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を確認する ・感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を確認 させるためにワ ークシートに記入 させる ・残存機能の活用、コ ミュニケーションの 大切さを理解させる 		15 分		一 斉 ・ 個 人	(2)	
	・次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を知る 						(1)	
評 価	<p>(1) それぞれの役割 (介護者・要介護者・観察者) を的確に行い、学習内容に積極的に取り組んでいる。 【感心・意欲・態度】</p> <p>(2) 適切な言葉かけや対応ができたか、また、要介護者の自立を促す、適切な援助ができる。 【技能・表現】</p>								